

佐倉福音キリスト教会

サクサク通信

2019年1月号(第49号)



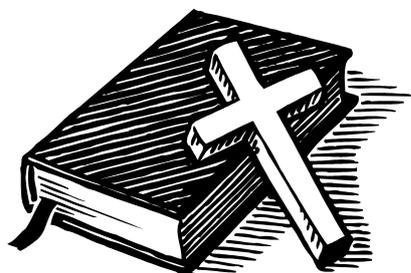
牧師：大高 伊作

電話：043-461-2983

住所：佐倉市白井田 774-83

mail: isaku.sakura.church@gmail.com

HP : <http://sakura-fukuin.com>



今月の聖書のことば

わたしの目には、あなたは高価で尊い。
わたしはあなたを愛している。

【イザヤ書 43 章 4 節 a】

あなたは、人間にどのようなイメージをお持ちでしょうか。人間を「機械」のように考えていないでしょうか。人間に、いや、自分に何ができるのか、ということを最も価値あることにしていないでしょうか。

社会では、特に会社では、雇用主はその人が持っている能力に関心を寄せます。従業員は、一日に何時間かを雇用主に「貸す」こととなります。世の中では多くの物が機械化され、人の手が段々といらなくなっています。人間の競争相手は機械であり、どんどん機械化が進み、人間は容赦なく仕事から外されていく悲しい現実があります。社会では、より効率よく働くことが求められ、それができないと評価されません。そして、この価値観が私たちにも刻み込まれ、能力主義に囚われ、何かができなければいけな

い、何かを生産していないと自分の価値を認められない、ということが起こっているように感じます。これは、悲しいかな教会の中にも入り込みます。奉仕ができなければいけない、もしくは何もできない人を低く見たりすることが起こり得ます。年を重ねた人は段々と奉仕ができなくなります。すると、自分の居場所がないように感じる方もおられるかもしれません。しかし、立ち止まって考える必要があります。それは、聖書の価値観なのか、と。聖書は「効率性」「生産性」を求めているのか。もっと言えば、神は人をどう見ておられるのか、という視点を大切にする必要があります。一昨年娘が与えられてから考えさせられる言葉の中に、「存在の喜び」があります。私たちは「存在」そのものを喜ぶ必要があるの

に、いつの間にか「何かができる」ということに価値を置くようになってしまいました。そして、何もできなくなる、例えば老いや病気によって何もできない自分を受け入れることができない、ということがクリスチャンにも起こります。

前置きが長くなりましたが、私たちが大切にすべきは、神様が「私」をどう見ておられるのか、ということです。神様は、私何が出来るから愛してくださるのでしょいか。何もできなくなったら愛して下さらないのでしょうか。まるで人間を機械のように見ているのでしょうか。絶対に違います。神様は、私たちが愛し、無条件で愛し、

「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」と語りかけてくださいます。現代のような効率よく生産性を上げることが求められる時代にあつて、自分自身の価値を認められず、自己卑下して歩んでいる人は少なくないのではないのでしょうか。神様は、私たち人間を造られた御方です。創造主です。その神様は、ご

～集会案内～

- 日曜日：聖日礼拝 11:00～12:30 ○水曜日：聖書研究祈祷会 10:30～12:00
教会学校 10:00～10:40（子どもから大人まで） 19:30～21:00
○毎月第2火曜日：ユニケの会 10:30～12:00（子育てなどをしている方のための集い。）

聖書に関する疑問等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。また、当教会は、エホバの証人やモルモン教、統一教会等とは一切関係のない、プロテスタントキリスト教会です。

自分で造った人間を粗末に扱うことはなさいません。神様の目には「高価」であり、「尊い」のです。今の時代こそ、この神様の声を聞かなければいけません。多くの人が世の価値観に流されています。それはクリスチャンであっても例外ではありません。自分の価値を「何かができる」というところに置いているうちは、存在の喜びを味わうことはできないでしょうし、他者のことも「何かができる／できない」で判断することになります。そして、結局は他者と比べて自分の順位を決め、相対的に評価して生きていくことになります。ぜひ、神様が見ているように、自分を、他者を見てください。

◆コラム

一時期、キリスト教界で「あなたは愛されている」というメッセージが語られ、罪が語られなくなったと言われた時期がありました。今もその名残があるように感じますが、私は両方をバランスよく語る必要があると思わされています。神様に愛されていることは事実ですし、それを語ることは大切です。しかし同時に、神様は正義の神様でもあり、人間の罪をそのままにしておくことはできません。ただ、その罪から救い出して下さる道を備える愛の神であることを覚える時、やはり神の愛も語る必要があります。特に、人間の価値を能力によって決めようとする時代にあつては、神様の無条件の愛を語る必要を感じています。